



○靴音の乾きし響き月天心
勝ち誇る鴉の高鳴き一直線
名月や欲望果てぬ人の業

郁子(土)

【今回の兼題】
①秋の蟬 ②鴉

迪子

○野菊揺れもう許そうかあの言葉
夕焼けに染まる川岸赤とんぼ
秋蟬や夕食黙々老ひとり

酔花

○秋蟬や母の遺品のそこかしこ
○エイヤツと断捨離決行鴉日和
人間も勢力競う鴉高音
○村一つ飲み込みダム湖秋の蟬
一夜明け街は秋色風白し
ゴミ出しの足を誘える秋の風

綾子

文子

○つくつくしいのち全うハルウララ
秋暑し十年の梅干食べ尽くす
一眠り欠けたる月を仰ぎけり

えり

異次元へ引き戻しけり法師蟬
鬼百合の田舎臭さはうつむけり
流れよむ猛りの鴉や岸辺枝

農子

暑い朝背を押される鴉の声
厨房の虫の音抑さえつくつくし
高い空姉葬送の朝の虹

志津子

○一時の雨にこぼれて葛の花
○友はもうこの村に居ぬ法師蟬
爪たてば香はほとばしる青蜜柑

初江

○いわし雲枝を上手に友来たる
過去帳に記す兄の名鴉日和
鴨部城跡の神木つくつくし

富子

○「国宝」のラストページを閉じて秋
秋蟬や生命終らせ天仰ぐ
鳴き声で鴉かと思う城歩き

丞子

百余年の母の人生生身魂
生き返る森羅万象彼岸花
半額の朝顔みごと風軽し

千代

○かなかなの森に小さな露天風呂
泥こそげ墓の写メール鴉の声
スケボーは風切り刻み鰯雲

瑞枝

○秋蟬や一茶最期の蔵に佇つ
○友の忌や面影むすぶ萩の花
難民の頭上に曇る銀河かな

郁子(岡)

○祖母が居る棚田のあぜ道彼岸花
初盆や娘三人残し逝く
空高く鳴き声高く鴉日和

味元 昭次 作品



鴉一羽一村を統ぶ空は青
従兄弟また逝った逝ったと秋の蟬
百舌鳥の尾のぴこんぴこんと総裁選

★次回市民句会

【開催日時】

令和七年十月二十二日(水)

午後一時十五分〜午後四時(予定)

【場所】

オーテピア4階 研修室

【兼題】

①芒

②烏瓜

(他の題材でも構いません)

【初めての方へ】

市民句会は、俳句愛好者の集いです。
どなたでも自由にご参加いただけます。
事前申込や参加費は不要です。

